

## あ と が き

弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授

紀要編集委員長・教育学博士 野口 伐名

この「社会福祉学研究第3号」は、第一部の本大学院社会福祉学研究科教員及び本大学院修了生の研究論文と、第二部の2007（平成19）年度本大学院社会福祉学研究科修了生の修士論文の抄録の二部から構成されています。前号（第2号）においては、第1号の「修士論文抄録集」を「社会福祉学研究」と改称したのを機会に、修士論文の抄録を広げて、本大学院社会福祉学研究科教員の研究成果を合わせて収録しましたが、本号（第3号）は、更に広げて、本大学院社会福祉学研究科修了生の研究論文の研究成果をも合わせて収録して、本大学院社会福祉学研究科の社会福祉の学問的成果を世に問い、広く社会福祉・人間福祉の構築に貢献しようとするものです。本号の執筆者のステイタスは、次のようになっています。

### 第一部 研究論文

秋庭 英人 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科 2004（平成16）年度修了生・本学社会福祉学部 2005～2006 年年度非常勤講師（ソーシャルワーク論）

野口 伐名 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授・教育学博士（児童家庭福祉論）

八巻 正治 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科教授・教育学博士（障害者福祉論）

齋藤 繁 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科研究科長・教授（高齢者福祉心理論）

### 第二部 修士論文の抄録

浅利 英伸 弘前学院大学大学院社会福祉学研究科 2007（平成19）年度修了生

本学社会福祉学研究科は、畏神愛人のキリスト教の福祉理念に基づいて、社会福祉制度や人間福祉行政の利用者或いは、受益者である住民一人ひとりの側に立って社会福祉・人間福祉問題を考え、地域社会の或は個々の住民の福祉問題に着目して、これらの解決方策を考究しています。例えば、浅利英伸論文に指摘されているように、「高齢者の虐待や自殺、孤独死、犯罪、交通事故といった人間の生命や権利にかかわる重大な事件・自己などの高齢者問題が年々増加している」のは、「高齢者にとって、今日の地域における生活環境は決して良いものではない」からで、今こそ高齢者の地域福祉環境について「何か対策を考えなければいけない」からです。そこに求められているのは、より人間らしい暖かい福祉の心の育成であり、社会福祉・社会保障の問題として地域社会全体が関心を持ち解決していかなければいけない問題であるからです。この「社会福祉学研究第3号」が、伝統的な劣等処遇の福祉観「ウェルフェア」から人間の権利の尊重と最善の利益に重心を移動して、自己実現の支援をめざす新しい福祉観「ウェルビーイング」へと福祉観の進歩的な変容をもたらし、現代日本の社会福祉・人間福祉の理念と実践の構築に少しでも生かされんことを願うものです。

2008（平成20）年2月28日（水）神の祝福を受けて刊行される佳き日に